

【曾於市】
校務 DX 計画

1 校務 DX 化の現状及び成果

文部科学省は、「次世代の校務 DX」実現に向けた 3 つの観点として、働き方改革の観点、データ連携の観点、レジリエンスの観点を挙げている。例えば、「働き方改革の観点」からは、校務支援システム(教務管理/保健管理/学籍管理)と汎用のクラウドツールを積極的に活用することにより、教職員や校内・校外の学校関係者、教育委員会がデータを共有し、作成書類の負担軽減やコミュニケーションの迅速化・活性化が可能となるとされている。

本市においては、校務支援システム「スズキ校務」の導入により、成績管理や出欠管理、保健情報から児童生徒の情報を一元化することで、必要な情報を必要な時に、必要な職員が取り扱えるようにしている。また、校務支援システム「See-Smile」を導入することで、学校内外の文書のやり取りをデータ化したファイルによって送受することにより、迅速な作業とペーパーレスの推進を図っている。

2 曾於市の状況と課題

(1) 校務 DX の取組に関するダッシュボードにおける本市の状況

調査項目	曾於市	全国
教職員と保護者間の連絡のデジタル化【出席連絡】	50%	76%
教職員と保護者間の連絡のデジタル化【お便りの配信】	40%	49%
教職員と保護者間の連絡のデジタル化【調査・アンケートの実施】	65%	61%
学校内の連絡のデジタル化【校内の資料共有】	55%	76%
学校内の連絡のデジタル化【調査・アンケートの実施】	60%	67%
教職員と児童生徒間の連絡等のデジタル化【調査・アンケートの実施】	45%	54%
FAX の原則廃止	20%	23%
押印の原則廃止	5 %	7 %

※ 数値は、「半分以上がデジタル化」を選択した割合

(2) 教職員と保護者間の連絡のデジタル化

欠席・遅刻等の連絡、保護者への連絡、お便り、調査・アンケートについては、まなびポケット等のアプリや回答 Form を活用することにより、文書をデジタル化して保護者へ一斉連絡・確認することができるようになった。

しかしながら、学校規模、学年等により使用状況に差があるため、今後はさらなる利用率の向上に向けて周知を図る必要がある。

(3) 学校内の連絡のデジタル化

校内での資料・情報共有については、施設内設置のサーバー、校務支援ツール「スズキ校務」、「See-Smile」、「Microsoft Teams」を活用してデータ共有している学校が増えている。校内研修や職員会議といった場において各種ツールを用いることで、ペーパーレス化を更に進めていく必要がある。

(4) 教員と児童生徒間の連絡等のデジタル化

1人1台端末の配備により、いじめアンケートや毎日の心の状態チェックなど、回答Formを用いた調査・アンケート実施が浸透しつつある。しかしながら、紙面を用いる等既存の連絡手段はいまだに多く、今後改善を促していく必要がある。

(5) その他

法令・規則により押印・署名が必須となっていないものについては教育委員会所属各課において、見直しを随時行っている。令和7年度に市の管理規則を見直し、押印の廃止に向けて改善している。FAXの利用については、校務支援システムやメールを活用することにより、原則廃止の周知徹底を行う。

3 今後に向けて

曾於市では1人1台端末の整備、アセスメントが完了し、校務DXを進めていく素地はできている。鹿児島県教育委員会から教職員にMicrosoftアカウントを全ての教職員に付与され、クラウドサービスを活用したアプリの利用やデータ保管・共有できる環境が整っている。校務DXを更に進めていくために、以下のことに取り組んでいく。

(1) 校務支援システムを活用するための研修会の開催

市内学校において、校務支援システムや利用できるアプリの活用のための研修会を開催している。また、ICT支援員を2人配備し、教職員の困り感に寄り添いながら、端末を文房具のように使うことができる教職員を育成する。

(2) ペーパーレスの推進

職員会議で印刷していた資料を、Microsoft Teamsやロイロノートを活用して、データで確認できるようにすることで、紙資料の削減を進めていく。また、市内学校間の連絡や成績処理においても、校務支援システムを活用することでペーパーレスを一層進めていく。

(3) AIドリルの活用

端末を毎日持ち帰ることで、AIドリル「ドリルパーク」を毎日持ち帰り、宿題としても活用できる環境になった。このドリルを活用することで、ペーパーレスを進めるとともに、教職員の丸付けの手間や正誤状況の確認など、教職員のはたらき方改革にもつなげていく。